

# Green Brave

10th Anniversary

## AUTOBACS SUPER GT 2022 SERIES

### Round 7

#### #52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT

#### FAV HOTEL AUTOPOLIS GT300km RACE

2022年10月1日(土) ~ 2日(日) オートポリス (大分県日田市)

## ■ ■ ■ ■ 予選 2 位からスタートし 2 年ぶりの優勝を果たす ■ ■ ■ ■

予選日(土曜日)の天候は晴。第7戦はサクセスウェイトが全車一律でハーフになるため、GR Supra GTには26kgが搭載されています。9時20分から行われた95分間の公式練習では、吉田選手が最初にコースイン。2種類のタイヤをチェックし、10時過ぎから川合選手がドライブします。気温と路温が高いため、予選で使用するタイヤは早々に決定。川合選手はユーズドタイヤでの走行を続けます。10時55分からの専有時間ではタイヤを交換して走行。ベストタイムは吉田選手が9周目にマークした1分44秒744。順位は4位です。

予選は2組に分かれて行われ、GR Supra GTはB組に出場。Q1のドライバーは川合選手です。予選開始とともにコースインした川合選手は、3周目に午前中のベストタイムを大幅に更新する1分43秒465をマーク。B組2位に入り、2戦連続でのQ1突破を決めました。続いて行われたQ2。吉田選手はコースの後半区間で、スロー走行中のクルマとかぶってしまったものの、アタックをまとめきり、1分42秒912のトップタイムをマーク。その後、#61BRZに抜かれたものの、順位は2位。第4戦から続いてきたフロント部の不具合は解消しており、GR Supra GT本来のパフォーマンスが戻ってきました。

決勝日(日曜日)の天候も晴れ。前日より暑く、スタート直前の路面温度は46℃に達しています。決勝ではタイヤ交換を伴う1回のピットインが必要になるため、チームは川合、吉田とつなぐレースプランを作成。川合選手は順当なスタートをきり、ポジションをキープして1コーナーに進入します。川合選手の走り出しは速く、#61BRZのすぐ後ろで1周目を終了。川合選手はコーナー進入時にラインを変え、仕掛けるチャンスをうかがいますが、加速で引き離され、2台連なったまま周回を続けます。9周目にGT500の先頭集団が川合選手に追いつき、#61BRZを攻略するチャンスが訪れます。川合選手は10周目の第2ヘアピンで、GT500と交錯した#61BRZのインに飛び込みパス。念願のトップに立つと、ハイペースで#61BRZを引き離します。

レースの3分の1を過ぎた19周目、2台の差は約9秒に。ピットに入るチームが現れる中、川合選手はコースとピットの混雑状況を慎重に見極め、予定より4周多い23周目の終わりにピットイン。吉田選手に交代し、給油とタイヤ交換を行い、コースに復帰します。店舗メカニックがロスなく作業を終えており、吉田選手の順位は16位。2周後に#61BRZがピットに入りますが、吉田選手は約8秒先を走行しており、実質的なトップです。

吉田選手は川合選手が築いた貯金を使いながら、タイヤに余力を残しながら走行。43周目には3秒差まで詰め寄られますが、タイヤの状態を見極めペースアップします。#61BRZとの差は再び拡大していき、吉田選手は大量リードを築いてトップチェッカー。2020年の第8戦富士以来の3勝目を記録し、スタッフはお互いの健闘を讃え合いました。今回の結果により、Green Braveのチームランキングは4位、ドライバーランキングは5位(川合選手)に浮上。全車ノーウェイトで行われる最終戦(もてぎ)が非常に楽しみになりました。



### 決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット Green Brave GR Supra GT  
(吉田広樹/川合孝汰)

**決勝: 1位** (61周、1時間55分43秒132)  
予選: 2位 (1分42秒912)



## DRIVERS VOICE

## 吉田 広樹 選手



(予選後) ウォームアップの感じがすごく良くて、予定よりも1周早くアタックをはじめたのですが、グリップとクルマのバランスが良く、思っていたよりもタイムが出ました。セクター3で3~4台の集団に追いついてしまい、みんなよけてはくれるのですが、ブレーキやアクセル、ラインなどがどうしても気になってしまいました。ただ、それ以外は大きなミスなく、アタックをまとめられたと思います。去年のオートポリス大会では、BRZを抜けずに4位に終わっています。この位置からスタートするので、優勝を狙って頑張りたいと思います。

(決勝後) ぼくたちドライバーを含め、みんなが1年間の足りなかった部分をどうにか良くしようとし、それがすべてかみ合ったレースでした。ぼくらも前進できているということが実感でき、うれしかったです。孝汰がしっかりマージンを築き、メカも素早いタイヤ交換で送り出してくれたおかげで、交代直後、たぶん7秒ぐらい余裕がありました。昨日と今日の走行で、タイヤが終わったらどうにもならないというのを感じていたので、万が一、セーフティカーが入ってリードがなくなっても、引き離せるよう、孝汰の貯金を使ってタイヤに余力を残し、逃げ切りました。

## 川合孝汰 選手



(予選後) 前回のフロントまわりの問題もなく、練習から良いフィーリングで走っていました。タイヤも走り始める前から、温度的にこっちだろうというのが決まっていて、それ通りに動いていました。リアまわりに少しトラブルが出たのですが、それもすぐに直り、不安なく安心してアタックできたので、すごく良かったと思います。この位置からスタートするのは久々なので、チーム復活の兆しとして表彰台にのっておきたいです。

(決勝後) スタート直後、前のBRZがきつそうだったのですが、タイヤの内圧も上がっていませんし、ガソリン満タンでクルマも重いので、無理はできない状態でした。そのあと、3位のクルマが離れて1対1の勝負になったのですが、前に出ればうちの方が速いと思っていました。レース後半の吉田さんのパートを楽な展開に持っていくためにも、BRZを抜くのが自分の大きな役目でした。第2ヘアピンでGT500がBRZのインに入り、ラインを外したところでぼくも一発勝負のつもりでインに飛び込みました。トラクションがしっかりかかり、抜き切れたので、そこが前半の大きなポイントだと思っています。ピットインのタイミングは状況を見て1周追加してもらいました。自分の判断を近藤さんが信頼してくれたのも大きかったです。

## GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT (トヨタ GR Supra GT)	61周
2位	SUBARU BRZ R&D SPORT (スバル BRZ GT300)	60周
3位	LEON PYRAMID AMG (メルセデス AMG GT3)	60周
4位	Weibo Primez ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	60周
5位	リアライズ日産メカニックチャレンジGT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	60周
6位	グッドスマイル 初音ミク AMG (メルセデス AMG GT3)	60周

天候：晴 路面：ドライ ※トップ6まで(出走27台)

## チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	56	KONDO RACING	71.5
2位	61	R&D SPORT	65
3位	10	GAINER	62.5
4位	52	埼玉トヨペット Green Brave	52.5
5位	11	GAINER	51.5
6位	65	K2 R&D LEON RACING	48.5

※トップ6まで



## PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社西武ライオンズ



大和ラチエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



株式会社ドーム



株式会社日本ヴェーテック



Mechanix Wear LLC

第8戦(最終戦)は11月5日~6日 モビリティリゾートもてぎ(栃木県)